

(6)

「▽志摩国答志郡和具郷難設里戸主大伴マ祢麻呂口」

同羊御調海藻六斤
養老七年五月十七日

295×33×4 032 三一九六号

(7)

「□八人 小□ □」 197×38×3 011 三一九五号

(8) • ××諸々尔味有酒又味物

• 忽尔相有時□矣也 〔^えカ〕 (147)×(17)×2 081 三一九三号

(9) ×□人龍 刑マ大麻呂」 (160)×21×5 019 三一九四号

(10) ×調荒堅魚十一斤十 両 142×34×6 011 三一九九号

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報一九六八』

(一九六八年)
同『平城宮木簡 三』(一九八一年)

(鬼頭清明)

奈良国立文化財研究所

『平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告』

(A四版・本文一六頁・図版四〇枚・一九八六年三月刊)

頃価 四、五〇〇円 『四五〇円 真陽社

『平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告』の刊行

現在、奈良市庁の南西約100mの所に復原・整備される特別史跡・宮跡庭園の発掘調査報告書が刊行された。調査は昭和五〇～五九年までの間に行われ、総面積六六〇〇m²に及ぶ。京内の一坪の様相が明らかになるとともに坪の中央に屈曲した石組の園池が発見され、奈良時代の庭園の実例として貴重な遺跡である。発掘調査では一〇一点の木簡が出土しており、和銅年間の貢進物の荷札や、「北宮」「竹野王子」「御坏物」「中務省」など注目すべき語句を記す木簡が多い。特に「北宮」は長屋王室の吉備内親王邸と考えられ、古代史研究においても興味深い内容をもつものといえる。奈良国立文化財研究所『平城京左京三条二坊六坪発掘調査概報』『平城宮発掘調査出土木簡概報』(1)・(2)などに略報告されているが、本報告ではそれらをまとめ、一点ごとに解説を付けており有益である。

奈良国立文化財研究所